

インターナショナル新書

『欲望の経済を終わらせる』

井手英策(財政学者)

定価：本体 880 円＋税

体裁：新書判／256 ページ

発行：集英社インターナショナル（発売：集英社）

ISBN：978-4-7976-8053-9

新自由主義に魅入られた経緯を徹底検証。

そして経済成長なき時代の

財政システムを提言。

コロナ禍の自粛要請や老後 2000 万円にも

おびえなくてすむ、いま読むべき1冊！

日本経済の行き詰まり、格差や分断、将来への不安はなぜ生まれたのか。気鋭の財政学者・井手英策が、われわれが規制緩和や民営化、小さな政府を推進した新自由主義に魅了された歴史を丁寧に、スリリングに解き明かす。本来お金儲けではなく、共同体の「秩序」と深く結びついていた経済。共通の利益をみんなで満たしあうという財政に立ち返る具体策を示し、「頼り合える社会」を提言。教育も、老後も、個人の貯金で賄うように押しつけられる「自己責任社会」から脱却することを目指す。

貯金ゼロでも不安ゼロ、休業補償が当たり前になされる未来に向けて必読の書！

井手英策（いでえいさく）

財政学者。慶應義塾大学経済学部教授。1972年、福岡県生まれ。東京大学卒業。東京大学大学院博士課程単位取得退学。専門は財政社会学、財政金融史。日本銀行金融研究所勤務などを経て大学で教鞭をとる。著書に『経済の時代の終焉』（岩波書店、大佛次郎論壇賞）、『いまこそ税と社会保障の話をしよう！』（東洋経済新報社）、『幸福の増税論』（岩波書店）、『ソーシャルワーカー』（共著、ちくま新書）など多数。



6月5日（金）発売

まえがきより

僕は、「新自由主義」という思想のもと、どのように自由がかたられ、その訴えとは反対に、どのように人びとの自由がしばられていったのかを解きあかしていこう。また、自由をただ擁護するのではなく、財政という経済システムを手がかりに、だれもが今日よりすばらしい明日を構想できる社会の可能性を論じていこう。

第5章 頼りあえる社会へ——人間の顔をした財政改革より

僕たちは経済成長を「目的」だと考えがちだ。だがそれはおかしい。将来安心して生きていくためにはどうしてもたくわえがいる。そのたくわえをつくりたいからこそ、僕たちは経済成長という「手段」を必要としているにすぎない。

もし、病気になっても、失業しても、長生きによって必要な資金がかさんでも安心して生きていける社会になったとすればどうだろう。僕たちは、いままでのように、血眼になって経済成長を追いもとめる必要はなくなる。(中略)

いわば手段を「成長」から「分配」「満たしあい」にかえていくという戦略だ。

【目次より抜粋】

序章 レッテル貼りとしての新自由主義

奇妙な生いたち／新自由主義とグローバリゼーション

第1章 新自由主義へ舵を切れ！

日本をおそった3つのショック／2兆円減税

第2章 アメリカの圧力、日本の思惑

内政干渉を利用した日本の政治／クリントン政権の強硬な態度

第3章 新自由主義の何が問題なのか？

なぜ都市無党派層は新自由主義を支持したのか／論理ではなく願望をかたる政府

第4章 「経済」を誤解した新自由主義の人びと

「経済＝お金もうけ」ではない／戦争と病気がうみだした近代国家／

「自己責任」と「共通のニーズ」のアンバランス

第5章 頼りあえる社会へ——人間の顔をした財政改革

税と貯蓄は「同じコインの表裏」／成長依存型社会からの脱却

第6章 リベラルであること、そして国を愛するということ

はたらくことが苦痛な社会／ベーシックインカムと人間の自由

終章 自由の条件をかたるときがきた！

国家は必要悪ではなく、必要である／「所得制限」が生む不公平さと社会の分断

コロナ後、
どんな経済、
どんな社会に
するべきか、
考えるヒントに！

経済成長がなくても、
幸せに生きられる！

*貴媒体にてご紹介をご検討いただけますと幸いです。
書影、インタビュー等、下記までお問合せください。

【本書のお問い合わせ先】

編集担当：集英社インターナショナル 出版部

電話 03-5211-2632 公式サイト <https://www.shueisha-int.co.jp>